

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年三月度 入賞句一覧

投句数 千七百二十句



特選

説田 祐子 選

入学式自分の階段第一歩

加茂郡川辺町

山岡 恒心(中二)

作者は中学一年生。この春の入学式が行われる時には、二年生に進級することになるわけですね。そのことを「自分の階段第一歩」と捉えていることがすばらしいです。二年生になっても、困ったことがあっても、自分の考えをもち、行動していけることでしよう。楽しく、応援したくなる俳句です。

「ありがとう」桜に残し中学生

大垣市

月森 亨介(中一)

作者は小学六年生。四月には中学一年生になるわけですね。卒業を前に六年間学んだ小学校の校庭でしようか。それとも、お家とか、通学路などに、桜が咲き始めようとしているのでしよう。六年間桜を眺め、学んできた気持ちがよく伝わる俳句です。中学生になられても小学校にまけない思い出ができることでしよう。

若草が太陽求めてのびをする

加茂郡川辺町

渡辺 かずは(中二)

三月の声を聞き、野原の草や木々たちも少しづつ、少しづつ芽を出し始めますね。その様子を若草の気持ちになつて、「太陽を求めてのびをする」とまとめているところがいいですね。春になれば暖かくなつて草木は伸びてくる。多くの人がそのように思うことを自然の営みとして、きちんととらえられていることがすばらしいと思います。これからもこのような気持ちで自然を見ていきたいですね。

秀逸

たんぽぽの綿毛に想いのせて吹く

加茂郡川辺町

伊藤 桃佳(中二)

冬の朝つめたい風がすきとおる

大垣市

井川 奏(小六)

新しい体育かんに春の風

大垣市

井上 しゅんたろう(小三)

しんがつき五年生へのかいだんだ

大垣市

ほり みづき(小五)

さくらの花みんなあつまりなかよしね

大垣市

須網 漣(小三)

笑い声風と一緒に飛んでいく

加茂郡川辺町

小田 憩(中二)

こだわりの赤い実つけてゆきうさぎ

大垣市

日比 麻鈴(小六)

ぶらんこでいっしゅんみえるはるのやま

大垣市

幸谷 葵(小六)

草むらで土筆と土筆が背くらべだ

大垣市

浅野 夏実(中一)

つくしんぼあっちこつちでせくらべだ

大垣市

こんない りく(小四)

